



令和 2年 5月 25日

資料提供先：倉吉記者クラブ

「天神川水害タイムライン」の完成報告を行います。 ～「天神川水害タイムライン」を出水期（6/10～）から運用開始します～

国土交通省では「水防災意識社会再構築ビジョン」として減災に向けた取組を進めています。

その取組の1つとして、国土交通省が管理する天神川の区間において水災害発生前に防災関係の多機関が連携しながら、迅速かつ効果的に防災行動をとることを目的としたタイムライン（防災行動計画）の検討を昨年から進めていましたが、この度「天神川水害タイムライン」が完成し、下記のとおり倉吉河川国道事務所長から流域の市町へ完成報告を行いますのでお知らせします。

記

1. 実施日時
①倉吉市 日 時：令和2年5月27日 10:00～
場 所：倉吉市役所 市長室（倉吉市葵町 722）
出席者：倉吉市長、倉吉河川国道事務所長
②湯梨浜町 日 時：令和2年5月27日 11:30～
場 所：湯梨浜町役場 町長室（湯梨浜町大字久留 19-1）
出席者：湯梨浜町長、倉吉河川国道事務所長
③三朝町 日 時：令和2年5月27日 13:30～
場 所：三朝町役場 町長室（三朝町大字太瀬 999-2）
出席者：三朝町長、倉吉河川国道事務所長
④北栄町 日 時：令和2年5月27日 15:15～
場 所：北栄町役場 町長室（北栄町由良宿 423-1）
出席者：北栄町長、倉吉河川国道事務所長

2. 報告内容 天神川水害タイムラインの検討経緯及び策定内容

※報告の内容及び天神川水害タイムラインの概要は別紙を参照ください。

※取材に来られる方は、別途集合場所をお伝えしますので、下記問合せ先へご連絡ください。

【問い合わせ先】

国土交通省中国地方整備局

倉吉河川国道事務所

TEL (0858) 26-6221 (代表)

副所長(河川) 丸下 淳一 (まるした じゅんいち)

【担当】 河川管理課長 小島 亨 (こじま とおる)

【広報担当窓口】 調査設計課長 波戸 秀浩 (はと ひでひろ)

倉吉河川国道事務所ホームページアドレス：<http://www.cgr.mlit.go.jp/kurayoshi/>

天神川水害タイムライン検討会の背景・目的

【経緯】平成28年6月より、市町村長による避難勧告等の発令に着目した「避難勧告着目型タイムライン」を作成し、これまで運用してきているところ、今回新たに河川の特徴に応じた多様な防災行動を図る目的で、これまでの行政機関に加え、ライフライン機関、鉄道会社、バス会社、報道機関等を含む構成員が、連携しながら、迅速かつ効果的に防災行動をとることを目的とした「多機関連携型タイムライン（防災行動計画）」を作成することとなった。



天神川水害タイムライン検討会メンバー（21の構成機関が参加）



タイムライン発足式の様子（R1.8.7）



タイムライン検討会の様子（R1.10.8）

天神川水害タイムラインの検討

- 多機関連携型タイムラインでは、災害の発生を前提に、住民の命を守る、さらに経済被害を最小化することを目的に、多くの関係機関が連携し、災害に対するそれぞれの役割や対応行動を定めたものである。
- 天神川では、8月7日に開催した「千代川水害タイムライン検討会・天神川水害タイムライン検討会 合同発足式」を皮切りに、検討を進めた（検討会は全3回）。
- タイムライン策定後は、**実際の出水での運用や訓練等により検証・改善**を実施する。

天神川水害タイムライン（令和元年度版）【詳細版】

（タイムラインレベル3）

避難判断水位超過、中小河川の氾濫による浸水発生のおそれ、暴風域内（風速20m/s以上）、台風警報、気象情報、大雨（浸水害）

項目	No.	実施内容	実施機関	実施時期	実施状況
タイムラインの運用	325	タイムラインの立ち上げ・レベル移行	〇		
	326	タイムラインのレベル移行の通知	〇		
組織体制	327	災害警戒本部の設置検討・準備	〇		
	328	職員の手配	〇		
	329	災害警戒本部の設置	〇		
	330	災害対策に関する会議の開催	〇		
	331	災害対策本部の設置（自治体）	〇		
	332	所長（市長）の発表	〇		

「いつ」

- ・防災行動を行うタイミング（TLレベル毎に発表情報や状況を整理）

「何をするか」

- ・行動は、階層別に記載
- ・既存の防災計画等と整合性を踏まえて防災行動を整理

「誰が」

- ・担当機関の防災行動の役割を表示
- ◎：主体的に行動する機関
- ：支援または協働する機関

多機関連携型タイムラインのイメージ



（今後の予定）

実際の出水での運用や訓練等により検証・改善を実施

天神川水害タイムライン

- 天神川水害タイムライン検討会では、災害時にいつ、どの機関が、何をするのかという行動を整理したタイムラインをとりまとめ、その成果を①詳細版、②総括版、③概要版の3つのツールとして整理することとしている。

①詳細版：各機関の防災担当者が詳細な対応を確認できるツール

A3サイズ

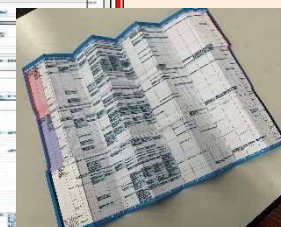
天神川水害タイムライン詳細版

②総括版：各防災機関の班長等が俯瞰的に作業の漏れがないかを確認できるツール（水位上昇が早い天神川でも、短時間で最低限実施すべき内容がチェックできる）

A2サイズ

天神川水害タイムライン総括版

総括版は折りたたみ、持ち運びが可能な形式



③概要版：構成員全体の動きを把握するためのツール

A3サイズ

天神川水害タイムライン概要版